

平成 22 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007 年～2009 年

課題番号：19310153

研究課題名（和文） 地域研究における『地域』の可塑性と重層性に関する比較研究

研究課題名（英文） A comparative Study on the Changeability and Multilayerness of  
“Region” in Area Studies

研究代表者 若林 正文

(WAKABAYASHI MASAHIRO)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60114716

研究成果の概要（和文）：本研究は「地域」という概念自体を再検討し、地域研究の実践とどのような関連をもっているのかについて、さまざまな地域を研究対象とする 10 人の地域研究者が比較を試みることを目的として研究を続けてきた。研究の実施にあたって、①文献収集と文献データの作成、②研究対象とする現地調査、③地域研究者の交流、④問題意識の共有と統合の 4 点を目的として、研究の実施計画をたてた。最終年を振り返り、ほぼ計画通りの研究活動を実施することができたと自負している。3 年目の本年は④の問題意識の共有と統合に力点を置き、研究参加者が協力して、まとめの作業にあたった。文献収集と文献データの取りまとめを行うとともに、2009 年 11 月 29 日には東京大学駒場キャンパスにおいて、一般に開かれた「地域文化研究の現場から」と題するシンポジウムを開催して、研究参加者が報告すると同時に、外部からコメンテーターを招聘して「地域」と「地域研究」に関する活発な議論を展開した。このシンポジウムを通じて、本プロジェクトの研究成果と研究上の諸問題を外に向けて発信することができただけでなく、地域研究者のネットワーク構築にも貢献できたと思われる。シンポジウムの報告と討論は、昨年の本研究中間報告書と合わせて、小冊子として公表する準備をしている。本研究により、「地域」の可塑性と重層性については研究参加者のあいだで合意が進み、共同研究の基盤ができた。比較研究によるさらなる成果を生み出すためには、本研究が今後も継続されることが重要と考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this project, ten researchers who specialize various kinds of region tried to reexamine the very concept of “region” and to compare each other’s research. When we carried out this project, we planned to set up the following four purposes: ①collections of literatures, ②fieldworks, ③exchanges among area studies researchers and ④sharing and integration of an awareness of issues. After three years’ project, we could say that our project has been implemented according to our plan. We held a symposium, “From the research sites of area studies”, at the University of Tokyo, Komaba campus in the final year, 2009. Through this open symposium, we were able to discuss lively about “region” and “area studies” with the commentators from the other university and institute. We are sure that we could not only show the results of this project to the public, but also contribute to build the network among the researchers of area studies. We are preparing to publish the proceedings of this symposium and the discussion. Our project members become to share a concept about “region” with changeability and multilayerness through this project, laying the foundation of farther joint research. In order to obtain more results by comparative studies, we think that it is important to continue this project in the future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2008 度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009 度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
年度			
年度			
総 計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：地域、地域研究、地域文化研究、文化、国際関係論

1. 研究開始当初の背景

一般に、地域研究は、「地域」としてまとめることが妥当性を持つような何らかの単に（例えば国家のレベルで切り取ることができるような単位）を対象とし、他の地域と比較しながらその地域の特性を考察する学問領域であり、当該地域の政治、経済、歴史、文化など学際的な観点から研究するものであると考えられている。我が国においては、本研究の研究代表者ならびに連携研究員が本務として所属する東京大学大学院総合文化研究科に、学部専門課程で対応する東京大学教養学部後期課程が、第二次世界大戦後の学制改革のなか、1951年に東京大学教養学部教養学科として発足した際に、この意味での地域研究の研究・教育組織が形成され、以来この組織は、我が国の地域研究の展開に主導的な役割を果たしてきた。当初そこにおいて設置されたのは、「アメリカの文化と社会」「イギリスの文化と社会」「フランスの文化と社会」「ドイツの文化と社会」の4つの分科課程であり、その後発足した「ロシアの文化と社会」を加えて5つの分科課程によって地域研究の研究・教育組織が構成されることになった。ここに見られるのは、国家のレベル、とりわけ国民国家のレベルにおける地域の規定である。また、上記の教養学科が発足した際、地域研究の諸分科課程と同時に、「国際関係論」の分科課程も設置されていることを考えると、第二次世界大戦直後の我が国の学術的環境において、地域研究と国際関係論が、相互・補完的な連関のもとに構想されていた状況を覗うことができる。しかしながら、上記の教養学科の動向に即してのべらば、そこには1973年に「アジアの文化と社会」という分科課程が設置され、冷戦後の1990年代には「ロシアの文化と社会」分科

が「ロシア・東欧の文化と社会」分科に改組されると同時に、「ヨーロッパ・コース」「ユーラシア・コース」も設置された。これに伴い、国民国家のレベルにおいて地域を規定するという当初の地域構想の在り方は大きく改変されることになった。この結果、アジアやヨーロッパという広大な地理的範囲に及び、文化と社会にも極めて多様なものを含んだ大規模レベルの単位設定と、そして国民国家レベルの単位設定とが混在する状況になっている。このように、地域研究において対象化される「地域」が、例えば国家のレベルで切り取られるものに限定されるのではなく、規模の尺度を異にする様々なレベルに位置づけられうるということは、現今の国内外の地域研究の実践においても相通ずる学術的動向である。

2. 研究の目的

本研究はこのような動向に対して、地域研究における「地域」がいかなる単位であるのかについて、明示的かつ反省的に考察する必要性を認識している。それに当たっては、「地域」が様々なレベルで概念化されることを念頭に置き、ある単一のレベルで「地域」を固定化させて捉えない姿勢が肝要となる。本研究は以上のような学術的動向と問題関心にに基づき、地域研究における「地域」の可塑性と重層性を焦点に、複数の地域研究者による比較研究を試みるものである。本研究は、研究代表者ならびに連携研究員のこれまでの地域研究の実践を踏まえ、地域研究における経験の蓄積の上に構想されたものであり、「地域」をアプリオリに前提された不変の所与、固定的な実体と捉えることなく、まさしく地域研究のただなかで様々な開示され構

築される「地域」を、その開示と構築の在り方に即して、比較論的な観点から可塑的かつ重層的に捉えることを目的としている。

### 3. 研究の方法

本研究は、以上に述べた問題意識に照らし、歴史学、思想研究、文学研究、文化人類学という、主として人文科学的なアプローチをとる地域研究者と、政治学、国際関係論という、主として社会科学的なアプローチをとる地域研究者との共同研究として企図されている。研究対象とする地域は、東アジア、東南アジア、西欧、東欧、ラテンアメリカ、アフリカと多様な地域にわたっているが、それぞれが特定の課題に対する特定の問題関心から出発し、その課題をフォーカスした時に、それがまさに焦点となるような、いかなるフレームを地域として設定しうるか、そしてまた、同じ課題に対してではあっても、それに対する問題関心をずらしたときに、いかに異なる地域のフレームが立ち現れるのか実証的な観点から比較論的に考察する。

### 4. 研究成果

本研究では3年間にわたって文献収集と文献データの取りまとめを行うとともに、5回にわたって、これまでの東京大学駒場キャンパスで展開された地域文化研究のあり方を主として検討する研究会を開催した。その成果の一部は中間報告書として昨年春に冊子として発行した。

次に、研究分担者が所属する東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻との共催で2度にわたって学術シンポジウムを開催した。第一回は「『地域知』の探求」と題して、2007年12月15日に実施された。第二回は、2009年11月29日に「地域文化研究の現場から」と題するシンポジウムを開催した。これらのシンポジウムでは研究参加者が報告すると同時に、外部からコメンテーターを招聘して「地域」と「地域研究」に関する活発な議論を展開した。このシンポジウムを通じて、本プロジェクトの研究成果と研究上の諸問題を外に向けて発信することができただけでなく、地域研究者のネットワーク構築にも貢献できたと思われる。シンポジウムの報告と討論は、昨年の本研究中間報告書と合わせて、小冊子として公表した。本研究により、「地域」の可塑性と重層性については研究参加者のあいだで合意が進み、共同研究の基盤ができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 39 件)

1. 若林 正文「矢内原忠雄と植民地台湾人—植民地自治運動の言説同盟とその戦後」『ODYSSEUS (東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要)』14号 (2009年)、7-33頁。
2. 柴 宜弘「ユーゴスラヴィアの解体—その原因をめぐって」『歴史評論』716号 (2009年)、57-64頁。
3. 遠藤 泰生「戦後日本の「審級」としてのアメリカ」『アメリカ太平洋研究』9巻 (2009年)、175-185頁。
4. 代田 智明「竹内好『近代とは何か』『近代の超克』再読」『中国研究月報』63号 (2009年)、1-12頁。
5. 中尾まさみ「『閉じぬ扉を背にして』—'District and Circle'における詩と暴力」、『イェイツ研究』第40号 (2010年3月)、pp. 36-52頁。
6. 森山 工「マダガスカルを歴史化する—<祖先の島>としてのマダガスカル再論」『SERASERA マダガスカル研究懇談会ニュースレター』20号 (2009年)、14-25頁。
7. 原 和之 (HARA Kazuyuki) "Never divide and love --- From Ethics of Psycho-analysis to Politics of Friendship", *Concentric. Literary and Cultural Studies*, Vol.36-2, 2009, pp.21-41.
8. 石橋 純「チャベスの10年—ベネズエラ民主主義の「質」と「価値」」国際問題、573号 (2008年)、30-39頁。

[学会発表] (計 33 件)

1. 若林 正文「葉榮鐘的述史之志」国際学術研討会「戦後台湾社会與經濟変遷」、2009年12月23-24日、台湾・台北。
2. 柴 宜弘 Revising Contemporary History in Japan, 41th National Convention. American Association

for the Advancement of Slavic Studies, 2009年11月15日、ボストン。

3. 中尾 まさみ「距離の力学--北アイルランド現代詩と紛争」地域文化研究専攻シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009年11月28日、東京大学駒場キャンパス。
4. 原 和之「フランスにおける精神分析の諸潮流」地域文化研究専攻シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009年11月28日、東京大学駒場キャンパス。
5. 学会報告 Le tragique comme l'au-delà de l'Œdipe -Autour de la Trilogie de Coûfontaine, Société Internationale de Psychanalyse et Philosophie (ISPP/SIPP), 2009年10月25-28日、ボストン。
6. 森井 裕一「リスボン条約後のEUと欧州政治の変容」地域文化研究専攻シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009年11月28日、東京大学駒場キャンパス。
7. 森山 工「マダガスカルの葬制から見る<地域文化>の射程」地域文化研究専攻シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009年11月28日、東京大学駒場キャンパス。
8. 石橋 純「記録・報告から参加・介入へ—南米民衆運動に随伴して」地域文化研究専攻シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009年11月28日、東京大学駒場キャンパス。

〔図書〕(計 17件)

1. 石橋 純(編)『中南米の音楽---歌・踊り・祝宴を生きる人々』東京堂出版、2010年。
2. 古田 元夫『ドイモイの誕生』青木書店、2009年。
3. 中尾まさみ(風呂本武敏らと共著)『アイルランド文化を学ぶ人のために』世界思想社、2009年。
4. 若林 正文『台湾の政治 中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年。
5. 柴 宜弘(編)『バルカン史と歴史教育—「地域史」とアイデンティティの再構築』明石書店、2008年。
6. 遠藤 泰生『アメリカの歴史と文化』財団法人放送大学教育振興会、2008年。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織
- (1) 研究代表者  
若林 正文 (WAKABAYASHI MASAHIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60114716

(2)研究分担者 (2007年)

古田 元夫 (FURUTA MOTOO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50114632

柴 宜弘 (SHIBA NOBUHIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50187390

遠藤 泰生 (ENDO YASUO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50194048

中尾 まさみ (NAKAO MASAMI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：60207719

森井 裕一 (MORIII YUICHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：00284935

原 和之 (HARA KAZUYUKI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：00293118

石橋 純 (ISHIBASHI JUN)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：70323318

森山 工 (MORIYAMA TAKUMI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：70264926

代田 智明 (SHIROTA TOMOHARU)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：60154382

(3)連携研究者 (2008-2009年)

古田 元夫 (FURUTA MOTOO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50114632

柴 宜弘 (SHIBA NOBUHIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50187390

遠藤 泰生 (ENDO YASUO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：50194048

中尾 まさみ (NAKAO MASAMI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：60207719

森井 裕一 (MORIII YUICHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：00284935

原 和之 (HARA KAZUYUKI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：00293118

石橋 純 (ISHIBASHI JUN)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：70323318

森山 工 (MORIYAMA TAKUMI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：70264926

代田 智明 (SHIROTA TOMOHARU)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：60154382